

特別支援学級担任等への支援の充実に向けて
～ホームページでの情報発信を通して～（2年次）

島根県教育センター
教育相談スタッフ 特別支援教育セクション 共同研究

目 次

【要旨】	1
1. 研究の背景	1
2. 研究の目的	2
3. 研究の方法	2
4. 研究の計画（2年次）	2
5. 研究の内容	2
(1) 取組の実際	2
① 特新担受講者へのアンケート調査の目的	2
② アンケート調査の結果	3
③ アンケート調査の考察	5
(2) モニターによる聞き取り調査について	6
① 調査目的	6
② 調査対象	7
③ 実施内容	7
(3) 資料について	7
①昨年度作成資料（資料A～D）の変更・改善	7
ア 改善・変更の視点	7
イ 各資料の概要と改善等	7
資料A 子どもをみつめる	7
資料B 各教科等を合わせた指導とは？	9
資料C 自立活動ってなんだろう？	10
資料D 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは？	11
②新規作成資料について	13
○ドキドキ、わくわく はじめての特別支援学級担任の1年	13
・交流学級の担任との打ち合わせ	15
・進路選択に向けたスケジュール	16
(4) 資料活用のための情報発信	17
① ホームページ画面の変更	17
② チラシによる学校への周知	18
③ 特新担受講者への情報発信	19
6. 成果と課題	19
(1) 成果	19
(2) 課題	20
7. おわりに	20
【引用文献】	20
【参考文献】	21

特別支援学級担任等への支援の充実に向けて ～ホームページでの情報発信を通して～（2年次）

島根県教育センター 教育相談スタッフ 特別支援教育セクション 共同研究

【 要 旨 】

本研究は、特別支援学級担任等のニーズに対応するために、当センターホームページでの情報発信の充実を図ることを目的とした。研究期間を2年間とし、昨年度（1年次）は、4つの資料を作成し、ホームページ（「特別支援教育のページ」）に掲載した。2年次となる今年度の研究内容は、アンケート調査等により4つの資料の評価を得て、改善を図ることとした。また、ニーズへの対応を検討し、初めて特別支援学級の担任となる教員への支援につながる資料の作成を行うこととした。バージョンアップをした資料と新規資料をホームページに掲載するとともに、各学校への周知をし、2年間の研究のまとめとしている。特別支援学級担任のみならず、支援を必要とする子どもたちにかかわるすべての教職員が、気軽にホームページを見て役立つ情報が一つでも見つかるような環境を整えていきたいと考えた。

【キーワード：特別支援教育 特別支援学級担任の1年 特新担 ホームページ】

1. 研究の背景

島根県教育センター（以下「当センター」という）では、初めて特別支援学級担任または通級指導教室担当となった教員の職務研修「小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修」（以下「特新担」という）を年2回行っており、特別支援教育に関する基本的な事柄を扱うとともに、特別支援学校センター的機能担当者や各教育事務所指導主事も交えた情報交換も取り入れ、充実した学びや実践への意欲につながるような研修内容の工夫を積み重ねてきている。しかし、特別支援学級の教育を行うに当たっては、通常の学級の教育とは異なる特別支援教育の幅広い知識や視点が求められることから、特新担受講者からの戸惑いや不安の声は多い。校内で相談できる人がいない環境では、なおさらその不安感は大きく、実践への見通しがもてないまま日々の実践を積み重ねていっている状況もある。このことから、集合研修の充実と併せて、当センターホームページに、特別支援教育について分からないことや困っていることについて、必要な情報をいつでも得ることができるような環境を整えておくことが必要ではないかと考えた。

そこで、昨年度から本主題を設定し研究に取り組むこととした。1年次は、アンケート調査によるニーズの把握と、ニーズに対応した資料の作成、ホームページでの情報発信を行った。昨年度3月には、各学校にホームページのリニューアルのチラシを配布し周知を図っている。

2年次である今年度は、まず1年次に作成した資料の周知状況や改善すべき点の把握を行いそれ

に基づき、より活用しやすい資料にするための改善や新たな情報の追加を行った。研修受講者のみならず、多くの教職員が活用しやすい資料とホームページの環境づくりを検討していきたいと考えた。

2. 研究の目的

特別支援学級担任等のニーズに対応するため、ホームページ等の充実を図る。

3. 研究の方法

- ① アンケート調査で昨年度作成資料についての評価を得る。
- ② ①に基づいて、モニターの評価も受け、新たな資料作成や昨年度作成資料の改善を行う。
- ③ 今後の資料の活用方法について明確にする。

4. 研究の計画（2年次）

- アンケート調査の実施
- 調査結果の分析
- 新規資料の検討及び作成
- モニターの決定と2回の聞き取り
- 昨年度作成資料の改善及び新規資料の完成
- 研究の成果と課題の整理
- ホームページアップと各学校への情報発信

5. 研究の内容

(1) 取組の実際

① 特新担受講者へのアンケート調査の目的

今年度の研究の取組とし、まず5月に特新担受講者(113人)へのアンケート調査(図1)を実施し、島根県教育センターホームページ(「特別支援教育のページ」を指す)に掲載した資料の周知や活用等について、状況把握を行った。調査結果を昨年度作成資料A～Dの評価と考え、資料の改善を図るための参考とした。

昨年度作成資料は、以下の通りである。

資料A 子どもをみつめる

資料B 各教科等を合わせた指導とは？

資料C 自立活動ってなんだろう？

資料D 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは？

また、新規作成資料を検討する上での、ニーズの把握を行った。

島根県教育センターHP「特別支援教育のページ」に関する調査用紙

質問 島根県教育センターHP「特別支援教育のページ」等について以下の質問にお答えください。

① 現在の「特別支援教育のページ」について、これまで(昨年度末または年度当初)にご存知でしたか？

1:はい 2:いいえ

② 質問①で「1」と回答された方は、どのようにして知りましたか？

1:チラシを見て知った。 2:「教育センターだより」で知った。
3:人に教えてもらった。(から聞いた) 4:その他の理由()

③ 特別支援学級担任または通級指導教室の担任になられてから、「特別支援教育のページ」をご覧になりましたか？

1:はい 2:いいえ

④ ご覧になった情報はどれですか。該当する情報に○印を付けてください。また、詳しく見た情報や参考にしたい(なった)情報については◎印を付けてください。

★子どもをみつめる	★各教科等を合わせた指導とは？(理解編)
★特別支援学級の教育課程について悩んでいませんか？	★各教科等を合わせた指導とは？(実践編) 授業構想シート
★個別の教育支援計画、個別の指導計画とは？	●教師のためのステップアップシート
★自立活動ってなんだろう	●学習指導案(様式別)
★自立活動の内容整理表	●配慮を必要とする児童生徒への支援
★自立活動シート	●参考資料
★流れ図	●参考になるサイト
★自立活動の内容一覧	●スキルアップ研修課題研究主題一覧
	その他()

⑤ 「特別支援教育のページ」全体や、それぞれの情報についての感想やご意見(改善すべきこと)をお書きください。

⑥ 「特別支援教育のページ」にあつたらよいと思われる情報(内容)があれば、お書きください。

ご協力ありがとうございました。 6月4日(木)までにご提出ください。

図1 アンケート調査用紙

② アンケート調査の結果

集計結果は以下のとおりである。

表1 ホームページの周知結果 (n=113: 特新担受講者数)

質問①	これまで(年度末または年度当初)、ホームページのことを知っていましたか。	
	はい(知っていた)	いいえ(知らなかった)
割合(回答数)	39%(44人)	61%(69人)

表2 ホームページを知った理由 (n=44: 質問①の「はい」の回答数)

質問②	どのようにして知りましたか。			
	人から	センターだより	チラシ	その他
割合(回答数)	41%(18人)	20%(9人)	16%(7人)	23%(10人)

表3 特新担受講者となってからの閲覧結果 (n=113)

質問③	特学担任または通級担当になってから、ホームページをご覧になりましたか。	
	はい(見た)	いいえ(見ていない)
割合(回答数)	87%(98人)	13%(15人)

表4 昨年度作成資料(資料A~資料D)の閲覧回答数と割合 (n=113)

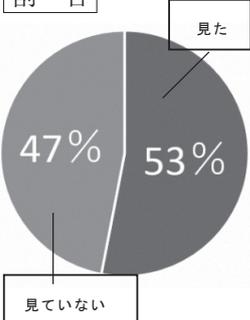
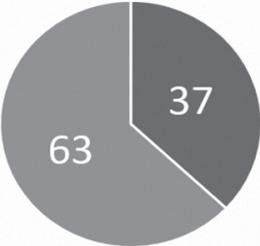
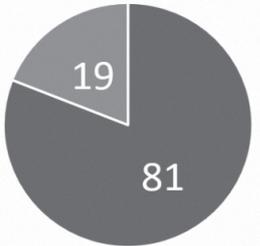
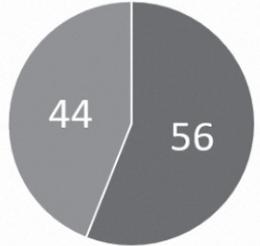
A 子どもをみつめる	B 各教科等を合わせた指導とは?	C 自立活動ってなんだろう?	D 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは?
回答数 60人	42人	91人	63人
割合 			

表5 ホームページと資料の評価（○良かった点、▲改善点）

質問⑤ ホームページや情報（資料等）への感想や意見

【良かった点としての評価】

○参考や知りたい情報として評価された点

- ・子どもの見方や具体的な支援の仕方が少しずつわかってきた。
- ・自立活動について、参考にした。
- ・このホームページが学習指導要領の内容を理解する上で役に立ちました。
- ・教育課程や教育支援計画など、子どもの成長を見据えて作成していくことが分かった。
- ・「困ったときはこのホームページを見ればいいのだ」と安心することができた。
- ・知りたい情報があった。
- ・担任として参考にしたいことがあった。 等複数回答

○分かりやすさ、読みやすさとして評価された点

- ・質問形式（Q&A）で分かりやすい。
- ・内容についてイメージがわかりやすい。
- ・内容ごとにまとまっていた。
- ・順を追って説明されている。
- ・図や表で表示してあった。
- ・配慮すべき事項が具体的だった。
- ・基礎的知識、専門的な内容が掲載されていた。
- ・Word、Excelで作ってある資料もあり嬉しい。

○担任として必要である情報として評価された点

- ・初めての特別支援学級担任になり、4月当初何から手をつけていいかわからなかった時に、とても参考になった。
- ・新卒なので授業についてはまったく分からなかったが、これからこの情報を活用していきたい。
- ・分からないことや疑問に思ったことが、ピンポイントに情報としてページにあった。
- ・通常の学級の担任でも学ぶ点がたくさんある。今後もこまめにチェックし、活用したい。

▲【改善につなげたい評価】

- ・個々の子どもによって困り事も複雑で多岐にわたっている。事例がもっとあればと思う。
- ・コーディネーターや、通級担当、通常学級担任にとって、事例や最新情報などの情報が増えると嬉しい。
- ・進路指導のポイント、流れが分かるとありがたい。
- ・何をしないといけないか分からなかった。担任の1年の見通し分かる資料があるといい。
- ・昨年度末にこのホームページを知り、参考にすればよかった。

表6 あったらよいと思われる情報

質問⑥ あったらよいと思う情報（自由記述）

・事例・実践例	17人
・進路関係（進路指導、進路の流れ、入学選考についての情報）	5
・教材・教具	4
・学習指導案	3
・通常の学級、交流学級とのこと、留意点	3
・個別の指導計画の様式等	2
・保護者との連携	2
・その他	1

③ アンケート調査の考察

○ホームページの周知について

- ・年度末や年度始めの時期に、ホームページについて「はい（知っていた）」と回答した人数は、特新担受講者113人中44人で、割合にすると39%であった。（表1）。この数字は、期待していたよりも低い結果であり、年度始めにホームページを知らなかった特新担受講者の割合が大きいという状況が分かった。特新担受講者になってからのホームページの確認は、87%と高い数字であった（表3）。このことから、担任でない時は情報を得る必要性がない状況であったが、担任になると、自ら情報を求めようとしたり、周りからも情報が提供されたりする状況へ変わったことが読み取れた。しかし、まだ残りの13%の特新担受講者が、アンケート調査の時点でホームページを見ていなかったことが分かった。
- ・ホームページを知っていたと回答された44人に対し、「知った理由」について選択肢で回答を求めたところ、「人から」が41%、「センターだより」が20%、「チラシ」が16%であった（表2）。各学校への周知として、教育センターから、「教育センターだより」、ホームページのリニューアルを知らせるチラシを配布し、直接的に特新担受講者に伝わることをねらっていた。しかし、結果からは多くの特新担受講者が、チラシを活用していたわけではないことが読み取れた。ただ、チラシを配布したことで間接的に特新担受講者に情報が伝わっていたことが分かった。
- ・特新担の研修が中止となり、特新担受講者に電話連絡をし、状況把握を行った。ホームページについての情報提供もその時に行ったため、電話を通じて知った特新担受講者もいた。

○資料の活用状況について

4つの資料について活用状況を考察した（表4）。

- ・資料Aは半数の人が手に取ったことが分かった。この資料は児童生徒理解において大事な視点について示し、事例を挙げて具体的な場面とつなげてイメージしやすいようにしている。様々な実態の児童生徒の支援についてのニーズがこの結果に表れていると考えた。ただ、特別支援教育の基本となる児童生徒理解について表したこの資料は、本来はもっとたくさんの受講者に活用してもらいたかったものである。活用しにくかった理由としては、年度始めのニーズとしては優先度が低かったこと、また実践と結びつきにくいイメージだったことが考えられた。
- ・資料Bは、他の資料と比較して低い数字ではあるが、これは知的障がいの教育課程を実施する場合に必要とされる内容だからであると捉えている。ただ、知的障がいの教育課程を実施している場合でも、資料を見ていなかった特新担受講者もいた。この理由のひとつとして、「各教科等合わせた指導」という言葉と、実践とが結びつきにくいということが考えられる。
- ・資料Cは、活用の割合が高い結果となった。自立活動は、特別支援学級や通級の担当者にとっては、必須内容でありニーズの高さがうかがえた。また、この資料の他に関連する資料（自立活動の内容整理表、自立活動シート等）（図2）も活用している結果も見られた。しかし、

時間割の中に「自立活動」の時間（自立活動の時間における指導）を特設していない場合は、特新担受講者によっては、資料について必要性を感じず、活用に至らなかったことも考えられた。

- ・資料Dについては、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成するにあたり、作成の目的や記入内容について理解する必要があることから、半数以上の特新担受講者が活用していたと考えられた。しかし、特新担受講者によっては、すでに作成済みで必要性をあまり感じていなかったと思われる。記入例等、具体的なイメージとつながる資料があればよりたくさんの特新担受講者の活用につながったかもしれない。



図2 関連資料等

○感想や意見等の記述から

アンケート調査の記述内容から、我々が昨年度に資料を作成する上で大切にしていた3つの視点（基本的な内容を扱うこと、具体的な内容を示すこと、活用のしやすさ）に関連するプラス評価が多くあった。このことから、3つの視点が有効であったことが確認できた（表5）。

表6では、あったらよいと思う情報（内容）をまとめた。「事例・実践例」、「教材・教具」「学習指導案」等が具体的な記述であり、「授業づくり」についてのニーズとして捉えた。これらのニーズについては、改善点として評価を得た内容と合わせて考え、各資料の中で、変更・改善に向けた検討をすることにした。

新規作成資料については、表5にあった「何をしないといけないか分からなかった。担任の1年の見通しが分かる資料があるといい。」といったニーズへの対応として、「特別支援学級担任の1年の取組」の内容を扱った資料の検討を行うことにした。また、「進路に関すること」や「交流学級とのこと」についてもニーズがあったため、そのことを含めて資料の作成を検討することにした。

(2) モニターによる聞き取り調査について

アンケート調査の結果から資料の作成・改善をしていく中で、アンケート調査だけでは把握できない資料を現場で活かしていったり、読む人に分かりやすく伝えたりするための意見を得たいと考えて、モニターによる聞き取りを以下のように実施することにした。

① 調査目的

- ・昨年度作成資料の活用状況や意見等を把握することにより、資料の変更・改善のための意見などを聞き取る。
- ・新規作成資料（試案）について意見等を聞き取る。

② 調査対象

令和2年度 特新担受講者よりモニターとして4人を決定

- ・小学校 知的障がい特別支援学級担任 1人
- ・小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級担任 1人
- ・中学校 知的障がい特別支援学級担任 1人
- ・中学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級担任 1人

③ 実施内容

(第1回) 昨年度作成資料A～Dについての聞き取り

(第2回) 新規作成資料(試案)についての聞き取り

2回の訪問の中で得た意見を基に、昨年度作成資料の変更・改善をし、新規資料の作成を行うこととした。聞き取り内容については、次から示す各資料の頁[(3)資料について]の中で触れることとする。

(3) 資料について

① 昨年度作成資料(資料A～D)の変更・改善

ア 改善・変更の視点

昨年度作成資料について、アンケート調査やモニターからの聞き取りなど得た意見等から内容の変更や改善を行うこととした。以下に示す各資料の説明ページでは、【概要】【変更・改善】【今後の活用について】の項目により説明することとする。

また、【変更・改善】についての説明は、次の2つの「視点ア」、「視点イ」に関する内容である。

「視点ア」 1年次の取組の継続

「視点イ」 アンケート調査・モニターからの聞き取り等からのニーズによる内容の追加等
以下各資料について、この視点で説明する。

イ 各資料の概要と改善等

資料A 子どもをみつめる

【概要】

「子どもをみつめる」は、児童生徒理解において大事にしたい視点について示している。具体的には、ICFの考え方に基づき環境との関係に着目した障がいのとらえについて、また、表面に表れた言動だけでなく、背景に目を向けた子どもの行動の理解についてである。具体的な場面とつなげてイメージしやすいよう、事例を通して「教員のつぶやき」→「子どもの視点で考えると」→「子どもの観察から」→「行動の背景として考えられること」→「考えられる支援」として表している。

【変更・改善】

「視点ア」、「視点イ」

昨年度、事例の取りあげ方について「作成側の思いが優先されているのではないか、ニー

ズに答えられているか」という課題が挙がった。また、「事例やみつめる視点を増やして情報を充実させる」ことでよりよい内容にしていきたいという願いもあった。そのため、今年度はモニターからの聞き取りに併せ、研修等でかかわる特新担受講者から寄せられた声などから考察し、よりニーズに合った内容としていくこととした。

事例については、追加してほしいものとして「読んだり書いたり苦手な子」「自分の思いを伝えるのが苦手な子」「指示を待っている子」「困っていることが伝えられない子、HELPが出せない子」等が挙がった。

また、セクション内の話し合いの中で、研修等で特新担受講者が理解に悩んだり困ったりしておられる子どもの行動として多い事例について、「かんしゃくを起こしたりするなど感情をコントロールすることが難しい」「提出物を期限までに出すことが難しい」等が挙がってきた。

これらのニーズに添った事例を取りあげていくことで、より子どもの視点に立った背景の理解を深め、適切な指導や支援につなげていくことができると考え、これまでの6つの事例に新たに次の4つの事例を加えることとした。(図3)

また、より具体的な指導や支援のイメージへつながりやすいよう、事例8については、活動例をイラストと合わせて示すようにした(図4)。

【今後の活用について】

モニターからの聞き取りでは、資料が「参考になった」「役に立つ」という声が多く、「通常の学級でも参考になる」という意見もいくつかあった。

事例 7	困ったことや分からないことがあっても黙っています
事例 8	作文を書くことがとても苦手です
事例 9	ちょっとしたことでかんしゃくを起こします
事例 10	提出物を期限までに出すことが難しい様子です

図3 追加した事例

内容としては、ICFの考え方については「よく分かった」という意見もあったが反面「あまり読んでいない」との声もあった。これは、特新担受講者が求めているものが、“今すぐに役立つ”“具体的な”資料だということの表れだと捉えることもできる。ICFの考え方は特別支援教育の基本であり、特新担受講者にもぜひ知っておいてもらいたい内容である。ただ、紙面では十分に伝えきれない面もあるので、今後研修等でも取りあげながら伝えていく必要がある。



図4 事例8「作文を書くことがとても苦手です」

資料B 各教科等を合わせた指導とは？

【概要】

「各教科等を合わせた指導」とは、知的障がいのある児童生徒に行う指導形態であり、知的障がいの特性を踏まえた効果的な指導と考える。「各教科等を合わせた指導」に関する書籍は多々あるが、初めて特別支援学級の担任になった4月に、それを読み込む時間は確保しにくい。また、学習指導要領も厚みのある冊子であり、必要なところを探し出すには時間がかかる。そこで基本的な内容をコンパクトにまとめることを視点に、分量を考慮し、読みやすさ、見やすさを意識したのはもちろん、印刷をしてもかさばらず、困ったときに年間を通して活用しやすいQ&Aをめざしている。

【変更・改善】

視点ア

昨年度、工夫点、課題点としてあげていたのは、①具体例として、複数学級、一人学級などの様々な学級形態の掲載、小学校又は中学校の一方の校種に偏らないように配慮する、②実践を知りたいというニーズに応えるため、授業例を掲載したが、小学校1例、中学校1例にとどまったため、2年次にさらに内容を充実させる、③国の最新の情報を得ながら更に内容の充実を図り、情報を整えていく（例えば評価について）、の3点を挙げていた。2年次は、これら①～③に加え、学習指導要領の改訂に伴って、④「各教科等の関連」についてイメージしやすくすること、⑤実態把握の必要性を再確認し、段階を意識して指導内容を工夫することが大切であることから、学習指導要領の掲載ページ（段階）を具体的に示すことの2点を加え、①～⑤の視点で変更・改善を行った。

①②について、小学校の「日常生活の指導」（図5）、中学校の複数生徒がいることを想定しての「生活単元学習」（図6）を追加した。その際、④⑤についても併記した（図6）。

視点イ

モニターの中には、例えば「生活単元学習」をどのように指導したらよいか分からないが、それが各教科等を合わせた指導の中の「指導の形態である」ということが分からなかったために、「各教科等を合わせた指導とは？」という名称の資料を手にとっていない例があった。また、「生単」とは生活単元学習の略称であるということを知らなかったために、資料を読んでいないという特新担受講者もいた。そこで、表紙に指導の形態の主な

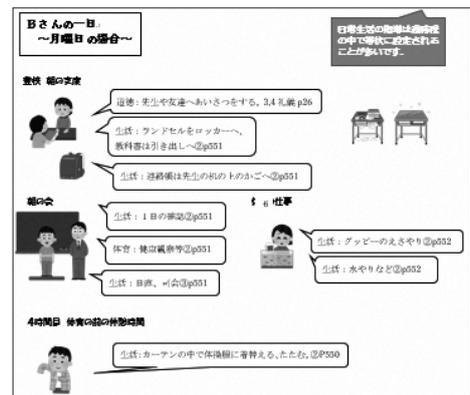


図5 日常生活の指導（小学校）

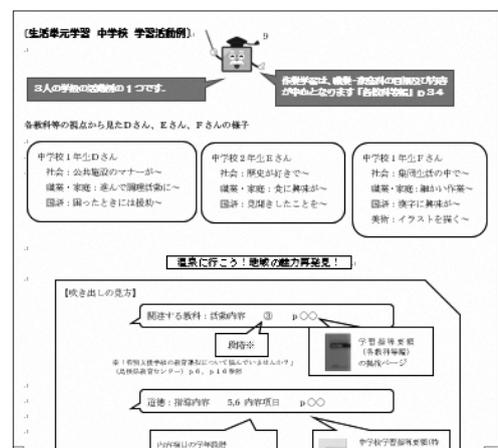


図6 実態把握、段階の追加

もの4つを明記した（図7）。

また、「理論編」と「実践編」を作成したが、「実践編」がよく分からなかったという意見から、「実践編」の具体（授業構想シート等）を最終ページに追記した。そこから直接ページへ進むことはできないが、どんなシートがあるのかというイメージをもってもらえるようにした。

【今後の活用について】

「実践編」での授業構想シートは記入例を用意したことで、それを参考にしながら一人で進めて行くことが可能である。実際に特新担の研修ではそれをもと



図7 指導の形態を追加

に自分で書いてみたという特新担受講者がいた。利点は必要なときにダウンロードできること、手書きではなくパソコンで入力することで負担がないこと、エクセルシートで作成したため、単元毎にシートを追加しながら活用できることだと思われる。今後も研修等で紹介していきながらさらに活用してもらえんことを願っている。

資料C 自立活動ってなんだろう？

【概要】

「自立活動ってなんだろう？」は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年3月（以下、解説自立活動編）を引用・参考にし、自立活動の重要性をより理解できるように、基本的事項を扱いまとめたものである。「理解編」「実践編」と分け、「理解編」では、基本的事項をQ&Aとし、「実践編」は、指導計画作成の手順の解説としている。初めて特別支援学級担任を経験する教員にとって、初めて出会う「自立活動」の理解は不可欠であるが、その理解は簡単にはできない内容である。基本から分かりやすく学べる資料を目指して作成した資料である。

【変更・改善】

視点ア

自立活動の指導を考える上で、実態把握は、重要なことである。昨年度作成の資料では、実態把握については、後半部分の「実践編」で内容を示していた。「理解編」の中で触れる必要性に気付きこの度、「理解編」の中のQ&Aを加え、「実態把握のために知っておきたいこと」と「実態把握の方法」に分け、イラストを使って親しみやすいレイアウトで見える人に伝えたいと試みた（図8）。

Q9 実態把握はどのようにするのですか？

A9 実態把握のために知っておきたいこととして、次のような内容があります。

<input type="checkbox"/> 病気の有無や状態	<input type="checkbox"/> 生活歴	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣
<input type="checkbox"/> 人やものとの付き合い	<input type="checkbox"/> 心理的な状況	<input type="checkbox"/> コミュニケーション
<input type="checkbox"/> 対人関係や社会性の発達	<input type="checkbox"/> 興味・関心	<input type="checkbox"/> 通学
<input type="checkbox"/> 家庭や地域の環境等	<input type="checkbox"/> 障がいに関する知識	<input type="checkbox"/> 学習上の配慮事項や学力
<input type="checkbox"/> 身体機能（視覚・聴覚・触覚・知覚・発達の身体発育の状態）	<input type="checkbox"/> 特別な施設・設備や補助具（機器等）の必要性	
<input type="checkbox"/> 検査などの結果		

また、その実態把握の方法として次のようなことがあります。

- 引継ぎ文書から
 - 既にある情報から知る
 - 個別の指導計画
 - 個別の教育支援計画
 - 個人ファイル
 - 検査から
- 本人から
 - 直接の目で知る
 - やどししながら
 - 学習の様子から
 - 本人との面談から
 - 集団の中での様子から
 - 観察から
- 人から知ろう
 - 担任・関係していた先生方、管理職、特別支援教育コーディネーター
 - 保護者からの情報
 - 関係機関の方（医療、福祉、教育相談）
 - 関係者から
- 資料から知ろう
 - 教育支援資料（文部科学省）
 - （授業計画、観察簿がい、知的障がい、肢体不自由、視覚・身体機能、運動障がい、情緒障がい、自閉症、学習障がい、注意欠陥多動性障がい等）
 - 自分が読みやすい書物、ネット情報

医師の診断がある場合は、その診断をもとに、特性の傾向や支援の方法を推測・検討することができます。しかし、「診断が●●だから、この子はこうだ」と子どもを見ずに決めつけるようなことはしないようにすることが大切です。

図8 追加のページ（実態把握）

視点イ

アンケート調査からは、資料を見た割合がとても高かったことや、資料の存在が指導を考えるために役に立ったことが分かった。反対に、理解しづらい、難しいという感想も多く、モニターからも、「流れ図は活用していない」という意見があった。そこで少しでも自立活動の計画を立てる手順を理解してもらうために、流れ図を示すページについて、表し方を丁寧にするようにした。

「実践編」の中で説明している流れ図について、その手順として付けた番号（①～⑧）と流れ図内の場所（位置）が分かりやすいように、線をつなぐ工夫をした。細かな点であるが、流れ図の説明箇所でもより理解しやすい配慮として考えた（図9）。

【今後の活用について】

ホームページでは、資料Cの他に自立活動に関連する資料として、自立活動の内容整理表、自立活動シート、流れ図等多数掲載している。資料Cと自立活動の内容整理表と一緒に活用していくことで、資料Cで



図9 流れ図と手順のページ

は、基本的な考え方と実態把握から指導内容を設定するまでの流れが分かり、内容整理表では、より具体的な場面の配慮事項や項目同士の関連が理解でき、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れを理解した上で、活用してほしいと考えている。しかし実際は、ホームページから資料を読んだだけでは、自立活動の十分な理解は難しく、大切なポイントを細かく丁寧に伝えることが十分にできない。自立活動は児童生徒一人一人に応じたオーダーメイドであり、指導に至るプロセスをきちんと伝える方法として特新担の研修内容として必ず扱うこととした。講義の中で、自立活動とは何かをきちんと説明し、演習を通じて、実際に担当している児童生徒について考えることで、自立活動の理解が深まる工夫をしていきたい。

また、校内においては、かかわりのある複数の目で児童生徒の実態をつかもうとすることが必要である。特新担受講者には、特別支援教育コーディネーターに相談したり、担当の児童生徒とかかわりがある教員と一緒に考えたりすることの大切さも伝えていきたい。

資料D 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは？

【概要】

個別の教育支援計画・個別の指導計画については、特別支援学級に在籍する児童生徒や通級による指導を受ける児童生徒全員に対して作成し、効果的に活用することとされている。また、通常の学級においても通級による指導を受けていない障がいのある児童生徒に対して作成・活用を努めることとされている。よって、各担任・担当教員がこの二つの計画を作成するメリットを感じながらより活用していけるよう、具体例をあげて説明することで内容の充実を図った。

視点イ

昨年度の資料について、モニターからは「言葉や内容などがよくわかった。わかりやすかった」という反面、「実際に記入するときにはどのように書けばいいのかわからない」「実際にはどのように活用していけばいいのかわからない」といった声があった。そこで、作成・活用の際に作成者が必要感を感じられるよう、Q & A の中に活用することによる利点（図11）や活用場面（図12）を具体的に示した。活用場面が明確になることで、実際の活用が進み、結果として、利点を実感できると考えた。

【今後の活用について】

モニターからの聞き取りでは、個別の教育支援計画や個別の指導計画は、作成をした後なかなか見ることがなく、そのまま年度末や学期末を迎えてしまうという声があった。このことから、年度始めの作成の時期や年度末のまとめの時期には必要感を感じて資料を見たり、作成したものを確認したりするが、年度途中には資料を確認することは少ないということが予想される。資料を機会ある毎に再度確認し、有効な活用につなげていくことは大切だと考える。そのため、資料には、「保護者等と相談の上内容を見直すこと」や「校内で支援について検討すること」等を含めた。さらに、それらの内容を具体的にイメージしたり、実際の場面につなげていったりできるように、機会をとらえて校内での活用方法についてのよい事例を紹介していくことが有効だと考える。

個別の教育支援計画を活用すると…

- *学校、保護者、関係機関で、それぞれの側面から情報を共有することができます。
- *学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活を含め、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことができます。
- *個別の指導計画に生かしていくことができます。

個別の指導計画を活用すると…

- *教育課程を具体化し、指導の目標、内容、方法を明確にしてきめ細やかに指導することができます。
- *各教科等の指導において、担任と教科担当などと指導についての情報交換を円滑に行うことができます。
- *行った指導内容や、その結果の有効だった手立て、うまくいかなかった手立てなどを具体的に記すことで、計画的、継続的な指導ができます。

図11 活用することによる利点

具体的な活用の例は、以下の通りです。

保護者との面談 <保護者面談、家庭訪問>

- ・今までの支援や連携機関の確認をする。
- ・支援の内容などについて合意形成を図り、決定する。
- ・支援についての振り返りをする。

校内で支援の内容を話し合う <校内委員会>

- ・実態把握をし、目標の設定をする。
- ・担任が行う支援の確認。
- ・校内資源の確認と支援者・支援内容の確認。
- ・地域資源の確認と支援者・支援内容の確認。

関係機関を交えた会議で支援の内容を話し合う <支援会議>

- ・学校、保護者、関係機関がそれぞれの役割を確かめ、必要な支援を行っているようにする。

保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校間等での移行支援会議 <年度末移行支援会議>

- ・今までの支援内容について共通理解し、継続した支援が行えるようにする。
- ・各市町村によっては、個別の教育支援計画を参考に引継ぎ書にまとめる場合があります。

図12 個別の教育支援計画の活用場面

② 新規作成資料について

ドキドキ、わくわく はじめての特別支援学級担任の1年
～見通しをもった取組のために～

【概要】

特別支援学級担任が年度始めに見通しがもてるよう、年間ですべて取り組む内容を、4～5枚にまとめた資料である。特別支援支援学級の学級事務、学校全体の動きの中ですべき交流学級との調整など日々取り組むことが分かるように時系列で表している。校種により内容に違い

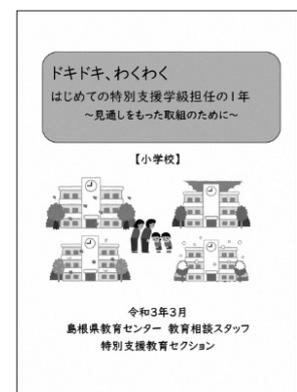


図13 表紙【小学校】

があることを考慮し、【小学校】と【中学校】それぞれを作成し、必要な内容を整理した（図13）。

また、アンケート調査でニーズがあった、交流学級に関すること、進路に関することについても、昨年度の調査からも同様にニーズとして挙がっていた内容である。今年度は、より分かりやすく、使いやすく表す工夫を検討し、この資料を補足する資料として作成することにした。

【作成上の工夫】

(ア) 全体を3つの区分で表記（図14）

資料全体は、月ごとにその内容を示した。縦は3つの区分「主として担任として取り組むこと」「学校全体で取り組むこと」「校外とのかかわり」に分けている。基本的な内容を大まかに示しているが、内容によっては、取り掛かりの時期が重要であることを伝えるために、早い段階で準備を始めることを考慮した表記を検討して作成した。

主に担任として取り組むこと	学校全体で取り組むこと	校外とのかかわり
<p>年度始め</p> <p>◎前担任等との引継ぎをしよう。</p> <p>□児童のことを知っておこう。</p> <p>・障がいの状態・健康面の状態（学校での配慮）</p> <p>・前年度までの個別の教育支援計画、個別の指導計画（進路に対する本人・保護者の希望の把握）</p> <p>・医療機関等の所見、検査結果等</p> <p>・通学方法（登校用、スクールバス等）</p> <p>Click!! 「子どもをみつめる」</p> <p>□教育課程の確認と学習状況の把握</p> <p>・学習の記録や使用した教科書、教材等</p>	<p>年度始めの準備</p> <p>□出席簿</p> <p>□教科書記事準備</p> <p>□教材選定</p> <p>□指導要録の確認</p> <p>□学級便り(通年)</p> <p>□学級経営案</p> <p>□会計事務の確認</p> <p>（学級費、教材購入計画、会計報告の仕方）</p> <p>□連絡帳</p> <p>□時間割(教則と連携して)</p>	<p>◆地域の特別支援学級との合同学習（年・数回、地域により異なる）</p> <p>【例】</p> <p>・市内合同学習</p> <p>・校区内合同学習</p> <p>・市内合同特別支援学級学習発表会（2学期末）</p> <p>・作品展（3学期）等</p>

図14 3つの区分

(イ) 補足説明を吹き出しや注釈で表示

移行支援会議や進路に関する取組など、項目だけでは内容が伝わりにくいものについては、吹き出し等で補足説明を加えた。また、早めにつながりをもってもらいたい相談先については、注釈をつけ、最終ページで解説を加えた。

(ウ) 取組内容を☑できるように

形式についての工夫として、取り組む内容をその時期で確認でき、したことが表せるようにチェック欄（☑で表示）を設定した。

(エ) 活用してほしい資料へのリンクを表示（図15）

ホームページの資料を活用してほしい時期にすぐに手に取ることができるように、是非読んでもらいたい資料のリンクを表示した。

小学校の特別支援学級の先生方へ
 小学校では、児童が学校生活に慣れ、基本的な生活習慣を身に付けることを目指し、児童一人一人がもっている力を把握しながら、その成長を支えることが大切です。学校（担任等）と保護者の連携を密にし、6年間を見通した上で1年間の計画を立てることが大切です。

特別支援学級担任の1年間役割について以下に例として示しました。見直しをもって学級事務を行うとともに、児童の支援を校内で共通理解するための動き等の参考として確認しましょう。(□)チェックする、○より詳細な資料を参照

主に担任として取り組むこと	学校全体で取り組むこと	校外とのかかわり
<p>年度始め</p> <p>◎前担任等との引継ぎをしよう。</p> <p>□児童のことを知っておこう。</p> <p>・障がいの状態・健康面の状態（学校での配慮）</p> <p>・前年度までの個別の教育支援計画、個別の指導計画（進路に対する本人・保護者の希望の把握）</p> <p>・医療機関等の所見、検査結果等</p> <p>・通学方法（登校用、スクールバス等）</p> <p>Click!! 「子どもをみつめる」</p> <p>□教育課程の確認と学習状況の把握</p> <p>・学習の記録や使用した教科書、教材等（※校内支援内、支援ツール、グッズ等合理的配慮も含めて）</p> <p>・年間指導計画や通知表等</p> <p>・新入生の場合、移行支援会議等の資料</p> <p>□前年度の教育課程、実施状況報告書の確認</p> <p>□登下校時の流れや連絡の仕方等の確認</p> <p>□行事等への参加に必要な配慮事項の確認（始業式・入学式）</p> <p>※春学期の総合発表、友人への感謝状など参加の仕方や必要に応じて児童達を誘って、当日までに準備をして用意する。</p> <p>◎校内の先生方と児童のことを共有しよう。(校内支援体制)</p> <p>□職員会、学年会等で児童のことを知らせる。(配慮事項等)</p> <p>□交流学級の担任との打ち合わせを行う。</p> <p>Click!! 「交流学級の担任との打ち合わせ」<小学校></p> <p>・理解教育</p> <p>◎教室等の環境整備をしよう。</p> <p>□机・イス等の準備(調整や位置等も含めて交流学級の教室も確認。その他:くつ置き場、傘立て、ロッカー他)</p> <p>◎時間割表、朝終礼の流れを示したものを</p> <p>◎前年度に作成するもの</p> <p>◎個別の教育支援計画 □学級経営案</p> <p>◎個別の指導計画 □年間指導計画</p> <p>Click!! (総務計画・授業づくりの参考に) 「個別の教育支援計画・個別の指導計画と何か?」 「特別支援学級の教育課程にどんな学習教材が?」 「教科書等を含む教材の確保は?」 「自立活動ってなんだろう?」</p>	<p>年度始めの準備</p> <p>□出席簿</p> <p>□教科書記事準備</p> <p>□教材選定</p> <p>□指導要録の確認</p> <p>□学級便り(通年)</p> <p>□学級経営案</p> <p>□会計事務の確認</p> <p>（学級費、教材購入計画、会計報告の仕方）</p> <p>□連絡帳</p> <p>□時間割(教則と連携して)</p> <p>□校内支援委員会（年間を通して運営）</p> <p>特別支援コーディネーターと一緒に確認してもらいましょう。</p> <p>○始業式</p> <p>○入学式</p>	<p>◆地域の特別支援学級との合同学習（年・数回、地域により異なる）</p> <p>【例】</p> <p>・市内合同学習</p> <p>・校区内合同学習</p> <p>・市内合同特別支援学級学習発表会（2学期末）</p> <p>・作品展（3学期）等</p> <p>※町内会全体、校区内の特別支援学級が合同で行う活動等について、協議をしておく必要があります。</p> <p>地域には教育研究会等の委員会があり、他校の先生と協働して実施します。</p> <p>【教育センター研修】 [858]小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修1回(特担任1回) 附録A 特別支援教育支援担任教員特別支援学校(センター的機能担当教員)</p> <p>◆県・地交流 特別支援学校から、校区内に住む児童にいて、交流依頼がある場合があります。</p>

図15 活用してほしい資料へのリンク

【モニターより】

年度始めの時期に何も分からず戸惑うことがないように、このような資料があると助かるという意見を聞くことができた。細かな学級事務等のやり方は、徐々に勤務している学校のやり方を学ぶことになるが、基本的な事柄が資料には含まれていて活用できると評価を受けた。

補足資料

[交流学級の担任との打ち合わせ]

【概要】

特別支援学級の児童生徒にとっても交流学級の児童生徒にとっても、交流及び共同学習は欠かせないものである。特別支援学級の児童生徒が交流学級に単に「居る」だけではなく、互いに学び合える環境の中で自己の力を発揮し、生活していく必要がある。そこで、はじめて特別支援学級の担任となった教員が、何をどんな風にはじめたらよいか、どんな内容を共有すればよいかをイメージする際のの一助となるよう、児童生徒の実態、配慮する事項について共有し合う内容の例を示した。

【作成上の工夫】

(ア) 堅苦しくならないように

日々忙しい中で、改めて打ち合わせの時間設定をしようと思うと、難しいことが多い。そこで、短時間、時間を見つけて少しずつでも確認し合うことは可能であることを示すため、教師の日常会話の中の様子を吹き出しで例示した(図16)。

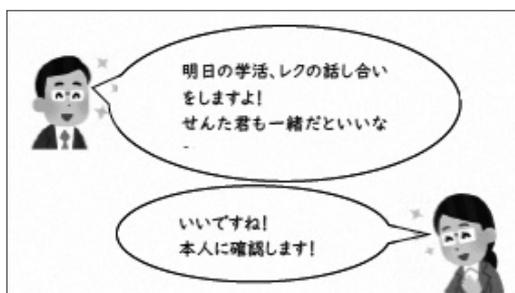


図16 教員間の会話

また、1度にたくさんのことを打ち合わせるのではなく、少しずつ打ち合わせる中で、児童生徒の普段の様子も共有したいという願いも込めた。

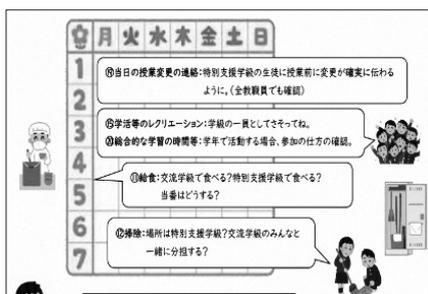


図17 1日の流れ

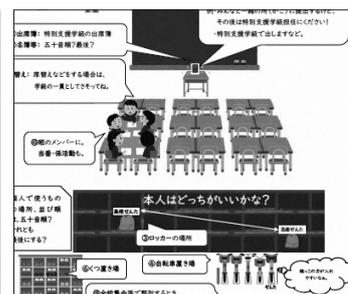


図18 教室のイメージ

(イ) 短時間でイメージできるように

1日の流れがイメージできるように時間割の流れにそって示した(図17)。また教室全体をイラストで示し、児童生徒が日常過ごす環境を全体的にイメージできるシートを作成した(図18)。

(ウ) 一覧で確認ができるように

特に4月は、児童生徒がスムーズに進級できるように配慮したい。そこで、項目を確認しながら、安心してスタートできるように、確認できるシートも例として添えた(図19)。

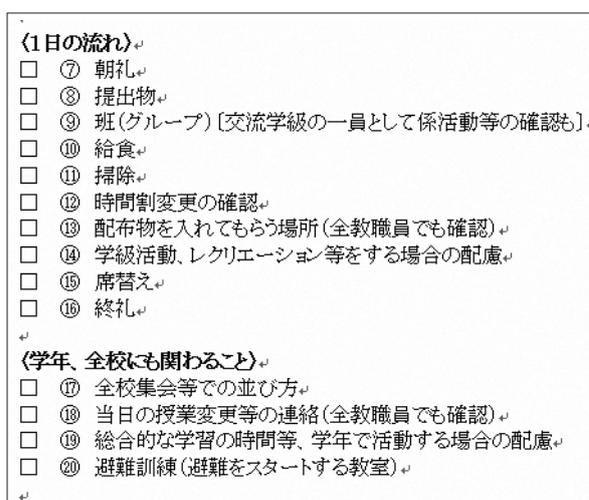


図19 確認シート

(エ) 小学校、中学校で学校間の流れがイメージできるように

小学校、中学校で基本的な形式はそろえ、学年が上がるにつれて、支援の方法が変わっていくこともあるということと比較できるようにした。比較しながら例えば小学校1年生の交流学級での提出方法と小学校6年生の方法では、やり方が変わってくるかもしれないということや、中学校に向けての準備の必要性などもイメージができるのではないかと考えた。

【モニターより】

分かりやすく、イメージがしやすかったという意見と共に、自分の学校種のみしか見ないだろうという言葉もあった。上記(エ)の我々の意図するところが伝わっていなかったことから、提示の仕方を工夫した。今後は印刷をした際に分かりやすくなるような方法も工夫していきたい。

また、交流学級の担任の方から積極的に打ち合わせの時間を取ってもらって助かったという学校もあった。各学校の実情に合わせて適切に活用してもらおうとよい。そして全てにおいて担任同士の話で終わりではなく、本人の気持ちを尊重しながら確認し合うということが大切である。対話しながら、一緒にやってみてよりよい方法を探していく必要がある。更には担任間だけでなく、学年、学校全体で共通理解して欲しいという願いを込めている。

【進路選択に向けたスケジュール】

【概要】

中学校の3年間の中で、進路選択に向けて担任が取り組む内容を整理し、表にしたものである。進路を決めていく過程では、生徒が主体的に学習などに取り組むとともに、「自分で決めた」という「自己決定」を大切にすること、担任は忘れず意識してもらいたいと考えた。生徒一人一人の進路は異なり、その決定に至る過程には、迷いや変更が当然伴ってくることも想定しなければならない。本人や保護者の思いや願いに寄り添うことを大切にしながらニーズの把握に努めることを示している(図20)。

【作成上の工夫】

(ア) 各学年の取組内容の提示

3年間の中で、学年ごとの取組内容の例を示した。内容によっては、その時期になって慌てないように早くから見通しをもって計画的に準備を行うことが特新担受講者に伝わるようにした。

(イ) 生徒主体、保護者連携を意識

取組のスタートとして、「本人・保護者のニーズの把握」というフレーズを大きく示すことで「主体」となるのは、本人・保護者であるということ意識できるようにした。また、表中には、「⇒(やじるし)」で、進路の方向や、本人の迷いを表した。生徒や保護者の気持ちが揺らぎ、進路先の最終決定までには、変化を伴うことも想定しておくことが大切であることを示した。

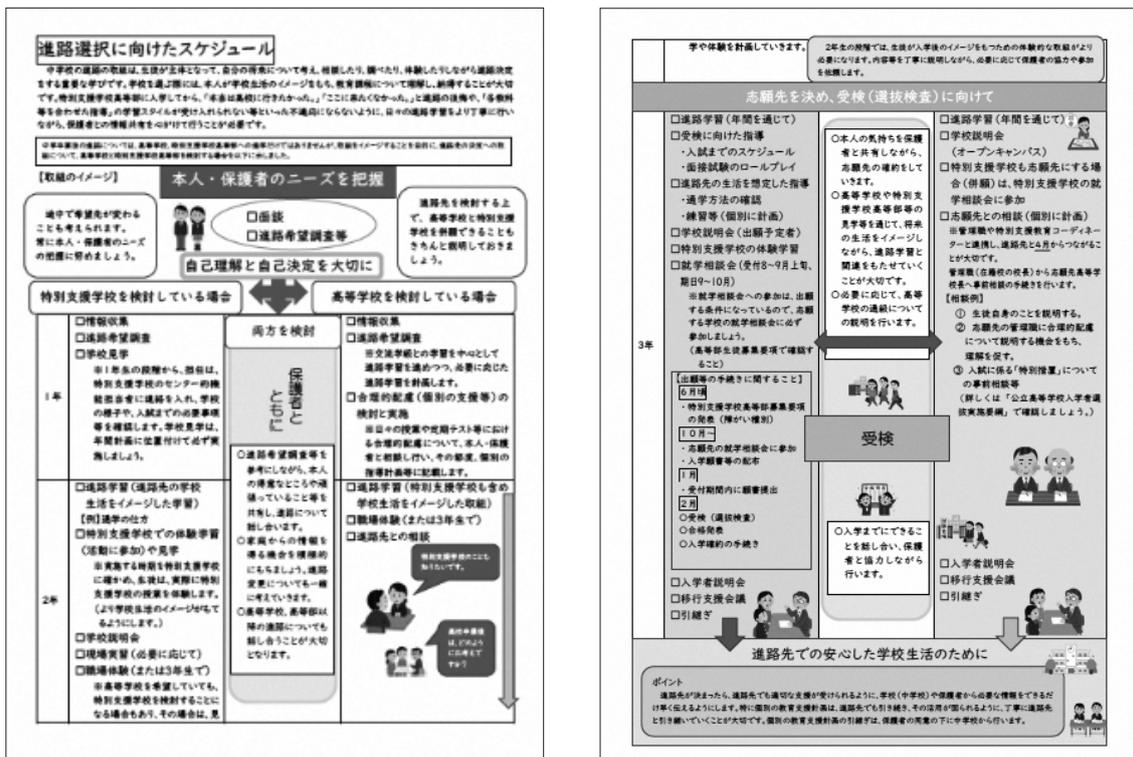


図20 進路選択に向けたスケジュール

(ウ) 見通しがもてるように

進路に関する取組は、多岐に渡る内容が含まれている。内容を精選し、特新担受講者に伝える情報量に配慮した。進路の取組の見通しがもちやすいように、2ページ分の読みやすい資料として作成した。

(エ) 3年生の取組を強調

志願先の決定に向けた内容や、受検に関する必要事項を明記し、必要に応じて要綱等を担任が確認するように表している。積極的に情報を集め、本人・保護者と共有していくきっかけとしてほしい。

【今後の活用について】

今後は、この資料を3年生担任だけが見るのではなく、1・2年生担任、また小学校、高等学校や特別支援学校等のよりたくさんの方に見てもらい、早い段階からの充実した進路選択に向けた取組につなげていけるとよいと考えている。

(4) 資料活用のための情報発信

資料の完成に伴い、どのようにすれば多くの方がホームページを閲覧し、必要な資料を活用できるかを考え、以下の方法を行うこととした。

① ホームページ画面の変更

ホームページの活用について、アンケート調査やモニターからは「様々な情報があり、知りたい情報を簡単に見つけることができた」という反面「文字が多い」「見たい資料にすぐにた

どり着けない」といった意見があった。

そこで、「見やすいレイアウト」、「少ない手順で必要な資料にたどり着ける」ということを意識してホームページの変更を行った。

【全掲載資料について】

特別支援教育のトップページでは、始めに全ての資料を一覧で示し、どのような資料があるのかすぐ確認できるようにした。その際、資料の表紙等を示し、気軽に見てみようと思ってもらえるようにした。また、特新担受講者がそのときに知らない内容や必要としていない内容についても、その一覧で知ることで、興味をもち開いてみることも期待した。

日々忙しい中で資料を検索するため、少ない手順で必要な資料にたどり着けるよう、一覧の次にはそれぞれの資料の簡単な説明とその資料のリンクを表示した。さらに、テーマが同じものをまとめて表示することで、特新担受講者が求めていた内容と合わせて関連資料も確認し、より深い理解や活用につながることをねらった。

【新規資料について】

特新担受講者にとって、「学級担任の1年」の資料は1年間の流れを簡単に大まかに確認することができ、年度始めに確認しておくとい資料である。また、「はじめての特別支援学級担任の1年」の資料を小学校用と中学校用に分けて画面上に作成し、関連資料にリンクを表示した。それにより、1年の流れと合わせて必要なときにワンクリックで関連資料を確認することができ、資料の活用がより進むと考えた（図21）。

月	主に担任として取り組むこと	学校全体で取り組むこと	校外とのかかわり
	<p><年度始め> ◎前担任等との引継ぎをしよう。 □児童のことを知っておこう。 ・障がいの状態・健康面の状態（学校での配慮） ・前年度までの個別の教育支援計画、個別の指導計画（進路に対する本人・保護者の希望の把握） ・医療機関等の所見、検査結果等 ・通学方法（登校班、スクールバス等）</p> <p>Click!! 「子どもをみつめる」</p> <p>□教育課程の確認と学習状況の把握 ・学習の記録や使用した教科書、教材等（有効だった支援内容、支援ツール、グッズ等合理的配慮も含めて） ・年間指導計画や通知表等</p>	<p><年度始めの準備> □出席簿 □教科書配布準備 □教材選定 □指導要録の確認 □学級便り（通年） □学級経営案</p> <p>□校内支援委員会（年間を通して適宜）</p>	<p>◆地域の特別支援学級との合同学習（年に数回、地域により異なる）</p> <p>【例】 ・市内合同学習 ・校区内合同学習 ・市内合同特別支援学級学習発表会（2学期末） ・作品展（3学期）等</p> <p>市町村内全体や、校区内の特別支援学級が合同で行う活動等について、把握しておくことが必要です。 地域には教育研究会等の部会があり、他校の先生と協力して実施します。</p>

図21 画面のイメージ

② チラシによる学校への周知

年度末には、ホームページが新しくなったことを知らせるチラシを作成し、全学校への周知を図ることにした。表紙には、新規作成資料を目立つように載せ、裏面には、昨年度作成資料のリニューアルの内容がより伝わるように資料ごとに吹き出しを付けて変更した内容を示した（図22）。チラシを手にとった方が興味をもたれ、校内で話題にしてもらうことで多くの方に、ホームページを活用してもらうことをねらっている。

2021年春
島根県教育センターHP
特別支援教育のページが
新しくなりました!

子どもたちの
未来のために

特別支援教育に関する悩みや疑問をおもてはなしていませんか?
そんなとき、知りたいことがわかったり、悩みが少し解決したりすることを通して、
HPの情報をリニューアルしました。どうぞ、ご活用ください。

New!

ドキドキ、ワクワクはじめての特別支援学級担任の1年
～発達しをもった児童のために～
【小学校編】
特別支援学級担任として1年間に行う内容を、
特系別で分かりやすく示しました。
補足資料として
編入選択に向けたスケジュール(中学校)
交流学級の担任との打ち合わせ(小学校、中学校)
も用意しました。ぜひご活用を!!

各教科等を合わせた指導って?
自立活動って何をするの?
教育課程ってどう考えるの?

島根県教育センター 検索

島根県教育センター 教育相談スタッフ 特別支援教育セクション
Tel 0852-22-6466, 5870
Fax 0852-22-6761
住所 島根県松江市内中原町255-1
URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/

特別支援教育のページ
内容紹介

リニューアル! 事例が増えました

子どもをみつめる
*子どもの視点でみつめる
*子どもの視点から、言葉の書き表
をしてみます。
*障がいの見え方
*子ども本人の視点と、子どもを育て
る親の視点から指導・支援を考えて
いきます。
*100事例を掲載しています。

実践事例一覧
*特別支援学級担任さんからの指導
実践事例一覧も載せています。
*読んでみたい実践は、島根県教育
センター、浜田教育センターで閲覧
できます。

リニューアル! 単元計画例が増えました

授業づくり
② 各教科等を合わせた指導とは?
*理解編
*120 Q&Aで解説しています。
*単元計画も載っています。
*実践編
*実践例11篇を掲載し、
授業づくりのポイントがわかります。
*120 Q&Aがポイントです。

リニューアル! 読みやすくなりました

授業づくり
① 自立活動ってなんだろ?
*理解編
*120 Q&Aで解説しています。
*実践編
*自治体の障がいの割合や自治体の
実情がわかる事例が紹介されて
います。(2冊の構成のシート)
*シートのダウンロードができます。

リニューアル! 様式例や記入のポイントがわかりました

個別の教育支援計画
個別の指導計画とは?
*理解編に答える形での説明
*120 Q&Aは単元の構成で
見やすくする事例について
説明しています。
*様式的な記入のポイント
*7ページから記入するポイントが
わかります。ポイントが載っています。

特別支援学級の教育課程
*疑問に答える形での説明
*120 Q&Aは単元の構成で
見やすくする事例について
説明しています。
*教育課程作成について
*理解編に答える形での説明が
わかる事例が紹介されています。単元
計画の構成についても載っています。

★ 授業づくりのための資料
*自立活動の内容整理表、自立活動の内容一覧
*学習指導要領解説、自立活動編、単元の内容も、影に印刷しています。
*障がいのある児童生徒への配慮についての事項
*学習指導要領解説、各教科に引き継がれる配慮事項(小・中・高等学校)についての事項も収録されています(小・中・高等学校)

★ 教師のための ステップアップシート
*ステップアップシート(自己振り返りシート)
*単元の導入時、特別支援学級担任さんからの授業づくりで活用されている事例を解説し、
*単元と関連し、授業中の教育実践につながるヒントが見つかるシートです。
*記入例も載っています。授業のダウンロードもできます。

★ その他
*参考資料・参考になるサイト
*書籍・DVD 貸し出し一覧

図22 チラシ

③ 特新担受講者への情報発信

今年度の特新担受講者には、ホームページの更新やチラシの配布のタイミングに合わせて、その内容を各学校にメールでも伝えることとした。また、次年度の特新担受講者にも情報が伝わるように、特新担の実施要項をメールで送る際に、チラシも添付することにした。これにより、年度始めに、初めて特別支援学級の担任となったときの不安や期待に少しでも寄り添いたいと考えている。

6. 成果と課題

2年次の取組を終えての成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

○ 調査等を通じた資料の改善

昨年度作成の4つの資料について全て変更・改善をし、バージョンアップをはかることができた。アンケート調査とモニターからの聞き取りの結果から、より分かりやすく、活用につながる内容を考えることができた。検討を行う過程では、特別支援教育課や各教育事務所の指導主事の助言を参考に、再度資料作成の目的を確認したり、必要な内容を加えたりすることができた。

○ 新規資料の完成

新規資料については、セクション内で何度も検討する中で、特新担受講者にとって必要な情報を整理し、精選しながら資料を作成することができた。

(2) 課題

○ 資料の内容に応じた活用の仕方

各資料の活用状況について考えていく中で、資料の内容によってはホームページでの情報提供だけでは十分に内容が伝わりにくいものがあることが分かった。そのため、資料内容によっては研修の中で扱うなど、別の方法でも活用していく必要があると認識した。研修内容等を考える上で、本研究の課題への対応を入れておくことは、より特新担受講者を支え、資料内容の理解と活用につながると考えた。

○ 継続した資料の改善

今後も情報発信を行いつつ、その後の資料の活用状況を把握しながら、必要に応じた資料の改善に努めることが大切だと考えた。また新たに追加する資料については、情報発信をする中で、上記で課題とした活用方法も念頭に、内容の理解のために何をしていたかなければならないかを検討しながら行っていきたい。研修等の機会を通じて、活用後の評価を得ながら、よりニーズに合った資料づくりに努めていきたい。

また、特別支援教育に関する最新の情報についても、関係機関と連携しながら、正しい理解の下で整理し、支援を必要とする児童生徒に携わる全ての方々に対して情報を届けていくことが重要だと考えている。そのひとつの方法として、ホームページによる情報提供を意識して取り組むたいと考えている。

7. おわりに

2年間の研究を通して、特別支援学級担任等のニーズへの対応の方法として資料作成に取り組んできた。そして、教職員への支援の充実としてホームページの環境を整えることができた。今後さらに、多くの方にこのことを知ってもらい、インターネット上で資料を確認してもらったり、印刷して手元に置きながら活用したりしてもらいたい。

最後になるが、2年間の研究をまとめることができたのは、多くの協力いただいた方々のおかげである。アンケートに協力いただいた今年度の特新担受講者の皆様、モニターの方々、資料作成に協力いただき、貴重な指導・助言をしてくださった各関係機関の皆様に感謝するとともに、今後ともご協力を賜りたいと考えている。

なお、この研究は、教育相談スタッフ特別支援教育セクション共同研究として行い、蘆田美江子、景山佳奈子、土井 史、高梨俊美が執筆にあたった。

【引用文献】

・文部科学省

『小学校学習指導要領』2017年

『中学校学習指導要領』2017年

『高等学校学習指導要領』2017年

『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017年

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』2018年

『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』2018年

『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（小学部・中学部）』2018年

『特別支援学校高等部学習指導要領』2019年

・島根県教育委員会 『特別支援教育ハンドブック』2011年

『教職員研修の手引』2020年

【参考文献】

・国立特別支援教育総合研究所

『改定新版 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド』錦織圭之介2013年

・名古屋恒彦

『アップデート！各教科等を合わせた指導』東洋館出版社 2018年、『わかる！できる！各教科等を合わせた指導』教育出版 2016年

・長崎県教育センター

『特別支援学校の教育の手引き 第2集 障害のある子どもの理解編』2019年

・岡山県総合教育センター

『自立活動ハンドブックー知的障害のある児童生徒の指導のためにー』2015年

・福岡県教育センター

『自立活動の授業づくり手順モデルシート』2011年

・山口県教育委員会『自立活動の指導の手引き』2013年

・山口大学教育学部附属特別支援学校 『自立活動指導内容表 作成ガイド（試案）』2018年

・熊本県立松橋東支援学校 『自立活動プランマニュアル』2018年

